



地域に根ざした病院を 目指しています

今年も残すところ1か月となりましたが、この1年間は、町にとっても病院にとっても非常に印象深い年となりました。

まずは、何と言っても、合併によって10月1日に南部町が誕生したことが挙げられます。

病院では、7月に、議会に工事請負契約締結の議決をいただいて全面建替え工事に着手したことが今年一番のニュースでした。

昨年来、「地域のための病院でありたい」という思いを持って、住民参画による病院づくりを進め、議会を始め、西伯病院のあり方懇談会委員の皆様や合併協議会まちづくり委員（住民福祉部会）の皆様などのご意見を伺って設計を進めてまいりました。

そして、本年7月の工事着手から4か月余り経ちましたが、新病院が少しずつ姿を現し始めた今、改めて、ハード面（建物）の充実とともに、ソフト面（サービス）の充実を図り、地域に根ざした病院を目指そうと決意を新たにしているところです。

地域に根ざした病院とは、いつでも、誰でも気軽に利用でき、また、住民の皆様方に信頼される病院だと考えております。

現在、少子化により子どもの数が減少してきており、小児科においても受診者数は減少傾向にありますが、町立病院だからこそ、対象者が減少しても、例え不採算部門であろうとも、いつでも受診できる環境を整備しておくべきだと考えています。

子どもは地域の宝です。是非、町立病院として地域の宝を守り育てていく役割の一翼を担いたいと思います。

年末年始は一般的には医療機関は休診となりますが、西伯病院では、地域の皆様方やお子様連れで帰省される方のために、小児科は12月30日（木）と1月2日（日）の午前9時から12時までの間、診療いたします。

また、小児科は平日の午後4時30分まで受け付けていますので、午後に受診される場合は電話の上、お越しく下さい。

これからも、地域に根ざした病院を目指して頑張りたいと思います。



柱の下に設置される免震装置（直動転がり支承）見学の様子

免震構造見学会

11月25日（木）町長、議長、議会民生常任委員会委員5名に参加いただき、病院免震構造見学会を開催し、工事現場で既に設置されている免震装置に直に触れるなど、免震装置の機能について確認いただきました。

新潟県中越地震において、小千谷市近郊の地下1階、地上5階建ての免震構造の介護老人保健施設では、建物内部の被害はほとんどなく、棚の上の皿さえ落ちなかったとの話しを聞き、参加者は熱心に免震装置の説明に耳を傾けておられました。